

蓑首城三の丸跡に残る、大條家の茶室について

やまもと民話の会 庄司アイ

佐藤司馬さんにお聞きした事を語ってみます。

わたしらの殿様、大條さまは、仙台藩の奉行職として、代々立派な功績を残し、ここ坂元邑を250年にわたって治めたんだい。このお館にお城があつて、ご書院では侍たちが集まって、まあ、今だったら役場のような仕事してたの。でも、明治3年(1870年)ごろ、動乱のころね、不審火でお城のすべてが焼失してしまつたのじゃない。

殿様の屋敷は三の丸にあつて大丈夫だったが、代々殿様は、仙台屋敷に住まわれて、青葉城の仙台藩づとめだったの。こちら坂元には留守居役の人があつて、殿様からの指示をいただきながら、家老職の人や城下の侍たち一致協力して任務に励み、坂元を治めてくれたのっしやあ。

茶室のことだけど、

藩祖伊達政宗さまが太閤秀吉さまからいただいたもの。つまり茶室は京都伏見城からはるばる青葉城に移築され、以来、仙台藩が大事に保管してきたのじゃない。それで、天保3年(1832年)2月に、大條15代道直(みちなお)さまが藩主伊達斉邦(なりくに)さまから、この茶室を入料付で拝領したんだい。大條の屋敷は川内にあつたんで、すぐ移築したそう。それから仙台の都市計画で明治21年(1888年)に屋敷替えとなり、大條の屋敷は支倉通りになり、再度移築となるのじゃない。それで昭和7年(1932年)になって、大條家の本拠地、坂元の蓑首城三の丸に移築されたんです。

記憶の茶室、記憶の大條の殿様

【伊達宗行さん(仙台藩志会会長)の茶室の記憶】
茶室は江戸時代、藩主の後継者問題で功績を挙げた先祖が、殿様から賜つたものです。元は仙台の川内の屋敷内にあり、明治時代に大病院近くのわが家に移築されました。昭和の初め、僕が3歳の時まで庭にあつた建物です。

(出典) 2017年(平成29年)5月10日河北新報「人生 仕事 談 6 物理学者伊達宗行さん(87)/40年ぶり仙台に帰郷・伊達の歴史を学ぶ」

【佐藤司馬さんの大條の殿様の記憶】

おらあ、小学4年だった。はじめて汽車に乗って仙台っていうどこさ、行ったのっしやあ。袴つけて正装して行ったんだあ。叔父・宥賢に連れられてもらったんだ。用向きは、おらの殿様どこさ、お年始なのっしやあ。父・為治郎の代理だつて言わつちえ、緊張したなあ。(中略)支倉通りの仙台屋敷さ、つれて行がっちゃんだ。ここが、おら方の殿様のお屋敷だつてな。立派なのっしやあ。殿様は伊達宗亮(むねすけ)様つて、若いとき美男の殿様つて言わつちやあ。殿様なんだ82歳になつてんだだけんと、しゃきつとしてるんだあ。立派な座敷に座らせらつちやあ。おら、どきどきしてよお。(中略)

殿様は、お土産に一筆書いてやるつて、おれさ言つて『家内安全』で書いてくれた。 (中略) 親も喜んで、すぐ表具して、掛軸にして床の間さ、掛けでけたんだよ。

それがら4年して、宗亮さま、亡くなつたんだ。大條家の墓地は、お城の南、お霊屋にあつて、代々の殿様が奉られてんだが、宗亮様は徳本寺に奉られてんだ。宗亮様は大條家十七代の殿様なんだが、明治になって、伊達姓を頂いたがら、墓地も新しくつていうことで、徳本寺から土地頂いで、平民と同じ墓地になつたのっしやあ。

(出典) 「司馬さんの昔ばなし(美男の殿様その三)」(記録・庄司アイノ平成11年発行)

秀吉さまから、初代政宗さまへ拝領の経緯については、政宗さまが太閤さまの命をうけて、朝鮮征伐に行ったことなどの褒美といわれてんのじゃない。その当時功績のあつた、加藤清正や石田三成といった武将何人かも、同じように茶室を拝領していると言われてるのじゃない。

それから、大條家で入料付で拝領したことでは、伊達家21代お世継ぎ問題でもめごとがあつたらしいの。その時、我が殿道直さまは正当を通し、斉邦さまを推挙申し上げ、伊達家の安泰に貢献されたんだない。

そのことで、斉邦さまから、ねぎらいの言葉があつて「何か所望するものはないか。」つてお声かけられた時、「伊達家の宝物、茶室をお譲りいただきたい。」と、申し上げたそうです。

それで、相応のお金を伊達家に差し上げ拝領したことが伝えられてんです。

お茶の文化が400年にも及んで物語があるんだない。

只、太閤さまより拝領の経緯等に関する記録は、探しあてられないのが心残りだいい。

▲佐藤司馬さんのご経歴▼

明治43年1月19日、山元町坂元字館下に生まれる。佐藤家は「大條家」のおひざもと、三の丸の家老屋敷で、代々家老職の任にあつた家柄。昭和30年坂元村、山下村両村合併により初の町議選に上位当選、昭和35年より山元町収入役2期、坂元公民館長6年、社会福祉法人山下静和会理事長14年、他多々の役職等にあって地域貢献。

(出典) 「司馬さんの昔ばなし」(記録・庄司アイノ平成11年発行) より

大條家ゆかりの茶室の歴史(補足)

【所在地】

宮城県亶理郡山元町坂元字館下119の2

【秀吉拝領について】

文書記録が発見されていない上に、数度の移築、様々な改築・増築の経緯があり、桃山時代の遺構がそのまま伝えられているというよりは、江戸時代末期の建築とみるのが妥当であろう。正確な築年代の特定にはさらなる検証を待つ必要がある。

【入料付について】

入料付とは、普通『仙台藩伊達家が建築費用のお金を付けて茶室を下賜した』と解釈する。但し、その金額に加えて大條家が多くを消費していた、或いは、入料付で拝領したことに対する御礼として相応の金子を伊達家に献上した等の可能性は推測に難くなく、それが語り継がれている可能性はある。

(参考) 伊達宗行「翠雨山房夜話(上)」(昭和63年)49頁

(12代藩主 伊達斉邦は)天保3年(1832)、道直43才の時に茶室を与えている。藩費で大修理し、川内の大条邸に移設。

(参考) 伊達忠敏「大條流伊達記録」(昭和63年)22頁

天保3年(1832年)正月11日奉行職仰せ付けられ、同2月藩主斉邦公の御前に於いて、御茶室拝領、御上の入料を以て、当屋敷内に御建て下さつた。

【坂元に移築後について】

大條家の分家の内山家が所有後、平成14年(2002年)に寄付を受け、町指定の文化財となる。茶室の中にあつた掛軸、古文書等の他、文人でもあつた伊達宗亮(大條家最後の殿様・伊達姓を名乗ることを命じられる)の描いた書画等は散逸を防ぐべく、町が購入保管。